

「良好な景観」とは非常に曖昧な定義です。

心地よく思える景観と不快感を煽る景観。

人によって感じ方は千差万別でしょう。

多くの方が不快と感じる煌びやかなサインを掲げる店舗群でも、都市部においては華やかさの象徴と成り得ます。

ただ、「無秩序な氾濫」では、ほとんどの方が不快感を覚えることも事実です。

「整然なる秩序」と「絶妙なバランスでのアクセント」が、私たちの感覚を左右します。

これに時間軸（歴史的要素）が加わって、景観の良し悪しが問われるようになると私は考えています。

「知名度の高い景観をもつ観光地＝景観が良い」のではなく、身近にいくらでも感覚を刺激する景観はあります。

与えられた景観の価値観を鵜呑みにすることなく、自分の五感で体感することが大切でしょう。

その場に立って自らの美意識を感じて欲しいと思います。

山口県には「黄色いガードレール」と「赤茶の瓦屋根」という独特な景観要素が以前からあります。

皆さんが「山口県だなあ」と感じる景観のひとつでしょう。

青い空、緑の大地、赤茶の瓦、黄色いガードレール。

相乗効果で何とも心地良い景観の基盤があります。

これが私たちの住む、美しい山口県です。